

NISC NEWS

第10号（2007年4月25日発行）
内閣官房情報セキュリティセンター
National Information Security Center (NISC)

★目次

1. 新年度にあたって
2. 補佐官ノート ～ 安心毛布 ～
3. 誰でもわかる情報セキュリティ用語 ～ 正常化バイアス ～
4. NISC COLUMN(ニスコラム) ～ どうして情報セキュリティが必要なの？～

1. 新年度にあたって

新年度に入りはや1か月が過ぎようとしています。年度始めのような変わり目の時期には、新人採用をはじめとして組織に人員の異動が少なからずあります。それまで順調に運用されていた情報セキュリティ対策にはほころびが出やすいのがこの時期です。新メンバーが持ち込んだり、旧メンバーが使用していたパソコンなどに必要な対策を施すとともに、組織の全員が情報セキュリティ対策についての運用ルールを理解し遵守できるよう、一人一人が再度徹底しましょう。その際、使われなくなったパソコンや記録メディアがあれば、不要な情報を確実に消去しておくことが重要です。廃棄されたパソコンから情報が流出した事例も多く報告されています。このように、体制の変化が生じた時点でその都度適切な対応をしておくことが、後に情報が流出するリスクを大幅に減らすことにつながります。

さて、NISCはこの4月25日をもって満2周年を迎えました。NISCは我が国の情報セキュリティに関するナショナルセンターとして、政策の企画立案と総合調整を官民一体で進めてまいりましたが、さらなる施策の充実と、刻々と変化する情報セキュリティ情勢への対策を推進していきます。またこの春より、現在の山口 英 補佐官に加えて、新たに北陸先端科学技術大学院（JAIST）の篠田 陽一 教授を情報セキュリティ補佐官として迎えることになりました。篠田補佐官は情報通信研究機構（NICT）の情報通信セキュリティ研究センター長も務めており、NISCにおいては政府機関統一基準を中心に、専門的・技術的な立場から、具体的な対策のアドバイスをいただきます。

2. 補佐官ノート

【 安心毛布 】

セキュリティ・ブランケットという物々しい名前がついた代物がある。ブランケットと言うくらいだから、天変地異のときでも頭から被っていれば大丈夫な毛布か、それとも国が被るような傘のような大きな概念かと思えば、漫画スヌーピーに登場する子供のキャラクター、ライナスがいつも引きずって歩いている薄汚れた毛布のことだったりする。このセキュリティ・ブランケット、安心毛布と訳されている。

ライナスは、いつも安心毛布を持ち歩き、これがないと落ち着かない。われわれが日本語として常用しているセキュリティという言葉、安全や防衛といった語感が強いのだが、もともとセキュリティには安心の意味も等分に含ま

れているのであった。

安心毛布は、そのまま辞書に載っているし、「ライナスの毛布」として心理学用語にもなっているらしい。また、触れているだけで安らぎが得られる安楽物(comfort object)、あるいは過渡対象(transitional object)として説明することもできるらしい。過渡対象とは、子供が成長過程で「頼りにする」もので、成長するにつれて離れていくが、まったく離れてしまうわけではなく、危険を感じるとまた頼りにするようなものを指す。情報セキュリティも、人はそれに守られ安らぎを得ながら経験を積み、新しい可能性を試すために出かけていく。危険を感じれば帰ってくればよく、付かず離れず関係は続いていく。やがてはそんな存在になればいいと思う。少なくとも煩わしいものであってはいけないことは確かだろう。

今は、守れ守れば守られるの硬いセキュリティが必要な、言わば情報セキュリティ原始時代なのかも知れないが、安らぎと可能性を同時に与えてくれる究極の、すなわち安心毛布の情報セキュリティが実現できるように、日々努力していきたいものだ。

(篠田 陽一 内閣官房情報セキュリティ補佐官)

3. 誰でもわかる情報セキュリティ用語

【 正常化バイアス 】

「正常性バイアス(normalcy bias)」とは、異常事態に直面しても、それを正常の範囲内としてとらえ、自分だけは大丈夫という心理が働くことです。ここで言う「バイアス」は偏見や先入観を意味し、日常性バイアス、正常化の偏見、正常への偏向とも呼ばれます。身近な例だと、体調に異変を感じても、「異常ではない」、「放っておけば治る」、「病院に行くほどではない」などと思いつまうとするのが、正常性バイアスです。

我々の生活は常にリスクと隣り合わせです。例えば、外出すれば交通事故に遭う可能性が生じますし、そもそも生物である以上はいつか来る死を避けることはできません。しかし、このようなリスクに過剰に反応してしまうと、日々の生活を営むことすら困難になりかねません。正常性バイアスは、必要以上の「杞憂」を抑えるために不可欠な心理上の働きなのです。ただ、この働きの度が過ぎてしまうと、本当に危険な非常事態の際にも、それを異常と認識せず、避難などの対応が遅れてしまう危険が生じます。特に日本人の場合には、自分だけが目立つことは避けたいという国民性も働き、「異常だ!」と言い出したり、最初に避難行動を起こしたりすることに抵抗があるようです。

情報セキュリティ対策においても、この正常化バイアスが大きな壁となる場合があります。これだけ頻繁にファイル共有ソフトの暴露ウイルスによる情報漏洩事件が報道され、多くの組織が業務情報や個人情報を私用パソコンで使うことを禁止しているにもかかわらず、情報漏洩は一向に減りません。漏洩を起こした当事者からは、「自分だけは大丈夫だと思っていた」、「パソコンが普段と違う動作をしたような気がしたが、問題はなかった」という証言が多く聞かれ、正常化バイアスの悪影響が強く疑われます。

それでは、このような正常化バイアスの負の働きを抑えるには、どうすれば良いのでしょうか？ 災害心理学では、日頃から災害の危険性を十分に認識し、異常の兆候がどういうものであるかを知り、非常時にはどう対応すべきかを考えることが大切と説いています。すなわち知識と訓練が有効であるのです。

これを情報セキュリティ対策に当てはめれば、ルールを守らないとどういうことが起きるか、情報が漏洩するなどの事故が起きたら組織や自分にどんな影響があるか、などを認識することが重要と言えます。さらに、例えばウイルスに感染した際の症状を知らなければ、もし何らかの異変を自分のパソコンに見出しても、正常化バイアスによって「異常が発生した」ことを認めるのは困難になります。しかし、異常状態の知識が事前があれば、曖昧な判断の入る余地を少なくすることが出来ます。情報セキュリティの教育や対策を行う皆さんは、単にルールを規定し構成員に通達するのみならず、このような視点での教育が重要かつ有効であることをご理解いただければ、と思います。

4. NISC COLUMN(ニスコラム)

【 どうして情報セキュリティが必要なの？ 】

情報セキュリティの世界に足を踏み入れて、もう4年が経とうとしています。これまで人前で情報セキュリティについてしゃべる機会が結構ありました。また、情報セキュリティについていろいろ人に聞かれる機会もありました。そういう際にいつも自問してきたのは「どうして情報セキュリティが必要なの？」ということでした。

ITが登場し急速に普及することで、私の生活は大きく変わりました。私の趣味のひとつは絶版になった古本探しでしたが、かつて神保町や早稲田で片っ端から歩いて探していた手間は、インターネットの利用によりほとんどなくなりました。また、地球の裏にいる友達ともメールで簡単に連絡が取れるようになりました。国際電話をかけて相手がいなかったときにへこむ可能性が減りました。友情を保つ苦労はだいぶ減ってきています。私の生活は、見えない部分も含めて、逆戻りできないくらいどっぷりITに浸かっています。

逆戻りできないのは、便利なところだけではありません。私のパソコンの中には、友達からのメール、デジカメで撮った写真など、いろんな情報が入っています。クレジットカード番号を入力することもあります。人様に迷惑をかけてはいけな、と親に言われて育った私としては、自分が恥をかいたり損をしたりするほかにも、人に迷惑をかける可能性が増えた、気をつけないといけないことが増えた、と感じています。

おそらく、このメルマガを読まれている方は、情報セキュリティに関心を持っていて、周りの人にも「情報セキュリティってなあに？」と聞かれたりする立場の方が多いと思います。さて、ここで質問です。「どうして情報セキュリティが必要なの？」と人に聞かれたらどう答えていますか？ お年寄りや主婦、小学生や中学生など周りのITに詳しくない人たちにも分かる言葉を使っていますか？ 改めて考えると結構難しいと思いませんか。

皆さんには、きっと世間的には情報セキュリティの伝道師のような役回りも期待されているのだと思います。情報セキュリティの世界に浸かるとどうしても難しい用語を使ってしまうがちですが、伝道師とは、自分自身の言葉で分かりやすく、かつ、熱を込めて、外の世界の人(世間の大多数の人たち)に布教する存在ではないでしょうか。それがうまく伝わると、相手の方は理解と安心を得て、感謝してくれるでしょう。

私自身は、まだうまくできていないと感じています。4年経っても、まだまだ精進が必要だな、と感じる今日この頃です。皆さんはどうですか？

(がるちゃん)

<バックナンバー・配信先変更・配信中止>

本メールマガジンにおけるバックナンバーの取得及び配信先の変更、配信の中止等は下記のURLから可能です。

<http://www.nisc.go.jp/nisc-news/>

<御意見、御感想>

<http://www.nisc.go.jp/mail.html>